

大腸がん

術後連携ノート

ver.1.1



中東遠総合医療センター

CHUTOEN GENERAL MEDICAL CENTER

〒436-8555 静岡県掛川市菖蒲ヶ池1番地の1

TEL : 0537-21-5555 (代表)

FAX : 0537-28-8926

HP : <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp>

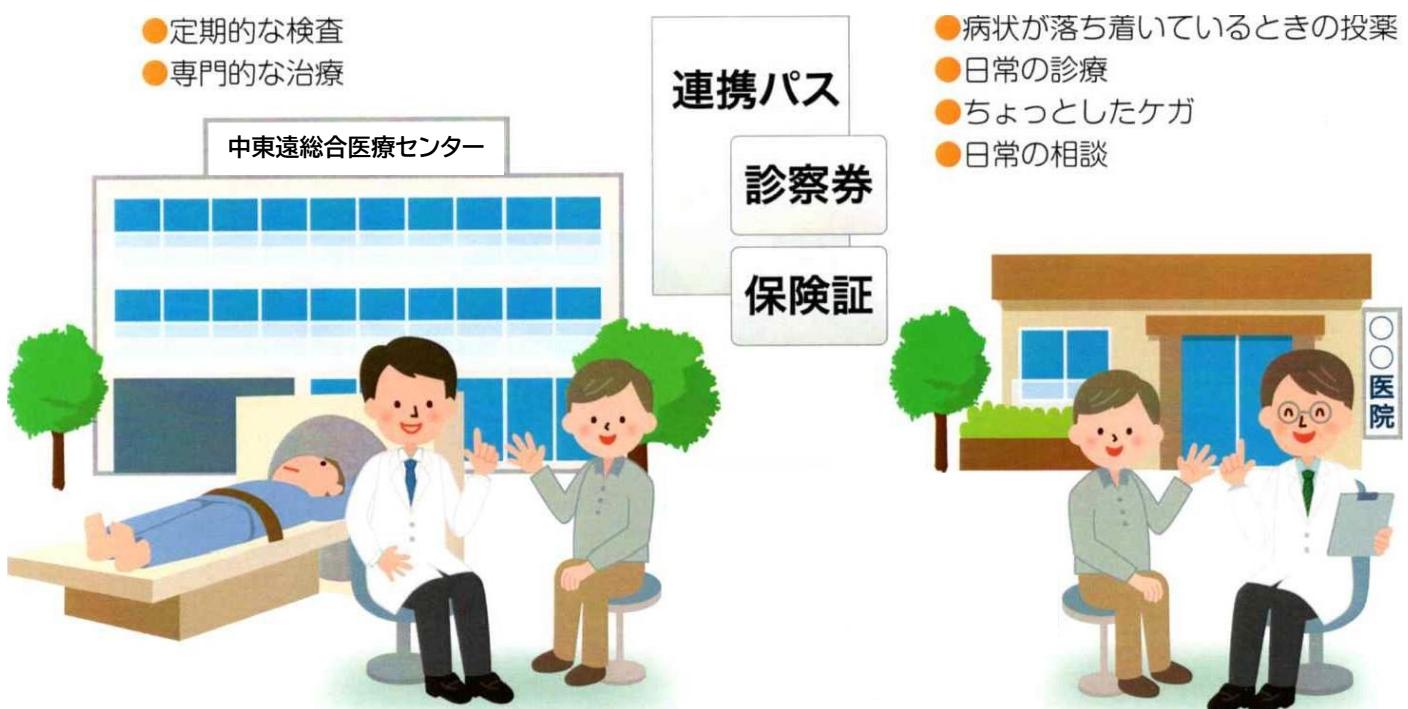
もくじ

はじめに 1
退院後の日常生活 2
退院後の食生活 3
退院後の診療 4
大腸がん術後連携ノート 6

はじめに

【連携パス】とは、地域のかかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が、あなたの治療経過を共有できる「診療計画表」のことで、「大腸がん治療ガイドライン」の術後サーバランス計画（再発チェックの診療計画）に基づいて作成しています。「術後連携ノート」を活用し、かかりつけ医と中東遠総合医療センターの医師が協力して、あなたの診療を行います。

この「術後連携ノート」を活用することで、地域のかかりつけ医と中東遠総合医療センターとが協力し、患者さんの視点に立った安心で質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとっても待ち時間などの負担軽減や、ご自身の診療計画や経過の把握、かかりつけ医の診療による不安の解消といったメリットにもつながります。



緊急を要する場合、休日や夜間等かかりつけ医を受診できない場合

地域連携パス患者です。
とお伝えください

中東遠総合医療センター TEL 0537-21-5555（代表）までご連絡ください。

退院後の日常生活

手術後におこりやすい症状について

大腸を切り取ったために栄養吸収や食事摂取量の低下、それに伴う体重減少などのトラブルはほとんどありません。しかし、手術後1～2か月くらいの間は下痢気味になったり、便秘気味になったり、と便通が不安定になります。

これらの症状は、多くの場合、食事療法や下剤や消化薬でコントロールすることができ、手術後一定の期間がすぎると生じにくくなります。

一方、直腸を切除した場合には、便をためる能力と便を押し出す能力が低下するため、排便の回数が増加したり、1回の便量が減少したり、残便感などの排便機能障害をきたします。これはある程度改善することもありますが、基本的には永続するものであり、付き合っていかねばなりません。

また、小腸や大腸の癒着^{ゆちゃく}により、内容物の通過不良が生じることがあります。腹部の膨満を感じたり、排ガスが停止したりするようであれば腸閉塞^{ちょうへいそく}が疑われます。

社会復帰に向けて

社会復帰が可能となる時期は、年齢や体力、環境、仕事内容、手術術式などにより異なります。ひとつの目安としては、退院後の仕事内容が主にデスクワークであれば退院後まもなく、お体をよく使う仕事であれば手術後1～2か月くらいを目処に社会復帰が可能と考えます。



退院後の食生活

食事について

原則的には、食事の種類に制限はありません。つまり、何を食べてもかまいませんが、食物繊維が多く含まれているものや消化しにくいものは、腸閉塞の原因となることがありますので、手術後1～2か月は控えたほうがよいでしょう。

最も基本的なことは、おいしく、ゆっくり、楽しく、食べることです。次のこと留意して、規則正しく、バランスの良い食事を心がけましょう。また、適量であれば飲酒も可能です。

おなかの症状について

便秘に対しては、水分を多くとるようにし、生活のリズムを整え、適度な運動を行い、規則正しい食事と排便の習慣をつけましょう。食事・生活習慣に注意しても便秘が続く場合、下剤が必要となりますので、かかりつけ医もしくは中東遠総合医療センターの担当医に相談しましょう。

下痢の場合は、消化の良い食品をとり、水分を制限せずに、むしろ補いましょう。少量ずつの食事とし、回数を増やすことで、消化管の負担を軽くしましょう。

腹部膨満感に対しては、1回の食事量を控えるように心がけましょう。それでも治らなければ、一度、食事をやめましょう。食事をやめても腹部膨満が続き、ガスが出ない場合は腸閉塞が疑われます。すぐに中東遠総合医療センターに相談しましょう。



退院後の診察

定期的な診察や検査を受けましょう

手術後**5年間**、がん再発チェックのために定期的な診察や検査を行います。

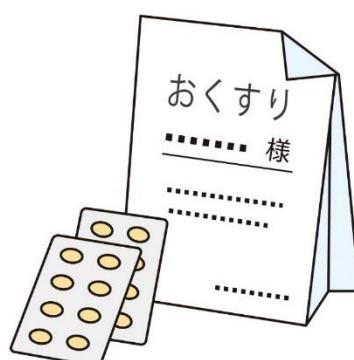
なお、定期検査は大腸がんを対象としているものです。他の病気をカバーするものではありませんので検診や人間ドックは別途受けるようにしてください。ご質問があれば、中東遠総合医療センター担当医にお気軽にご相談下さい。



定期的な
診察や検査を

術後補助化学療法について

手術によりがんを切除できた場合でも、リンパ節転移があった場合に、再発率が高くなることが知られています。このような場合、手術を行った後に化学療法を行うことで、再発率を低下させることができることがわかっています。このような治療を、**術後補助化学療法**といいます。一般的に、術後補助化学療法はリンパ節転移があるステージⅢ期の患者さん、およびステージⅡ期のうち再発リスクの高い一部の患者さんに対して、半年間、点滴もしくは飲み薬（もしくはその併用）の抗がん剤を投与します。



処方された薬は忘れずに服用しましょう

病院で処方された薬は、手術後の状態を安定させるためや手術の治療効果を高めるためにあなたに必要と判断して担当医が処方したものです。薬を服用するように医師から指示された場合には、指示された通りに忘れずに正しく服用してください。

副作用がある場合には、医師に申し出てください。



悩みを一人で抱える必要はありません

あなたが安心して治療や検査を続けていくためには、ご家族や担当医・看護師とコミュニケーションをとって、気持ちを共有することが大切です。

不安になることや悩むこともあるかと思います。自分からに閉じこもらず、不安や心配は担当医や看護師、中東遠総合医療センターのがん相談支援センターにお気軽にご相談下さい。

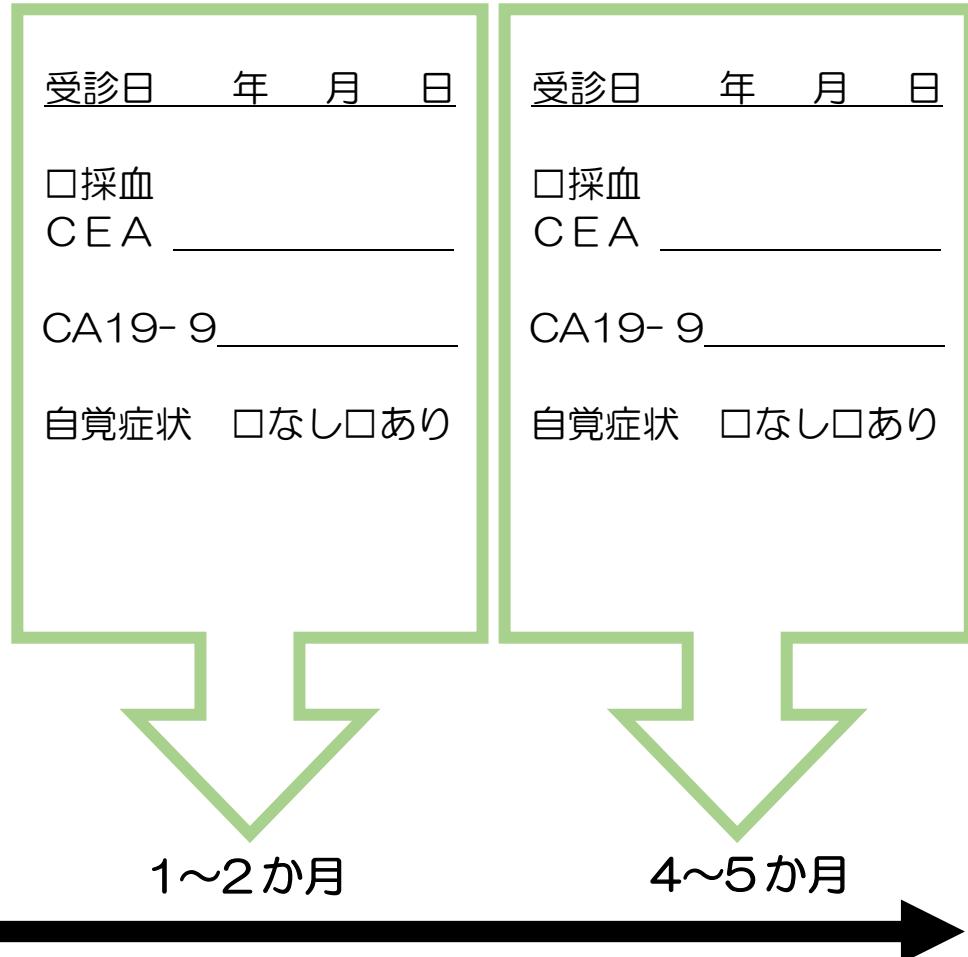


大腸がん術後連携ノート（0か月～1年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____



中東遠

カルテ番号 _____

患者氏名 _____

生年月日 年 月 日

病名 _____

手術日 年 月 日

最終診断

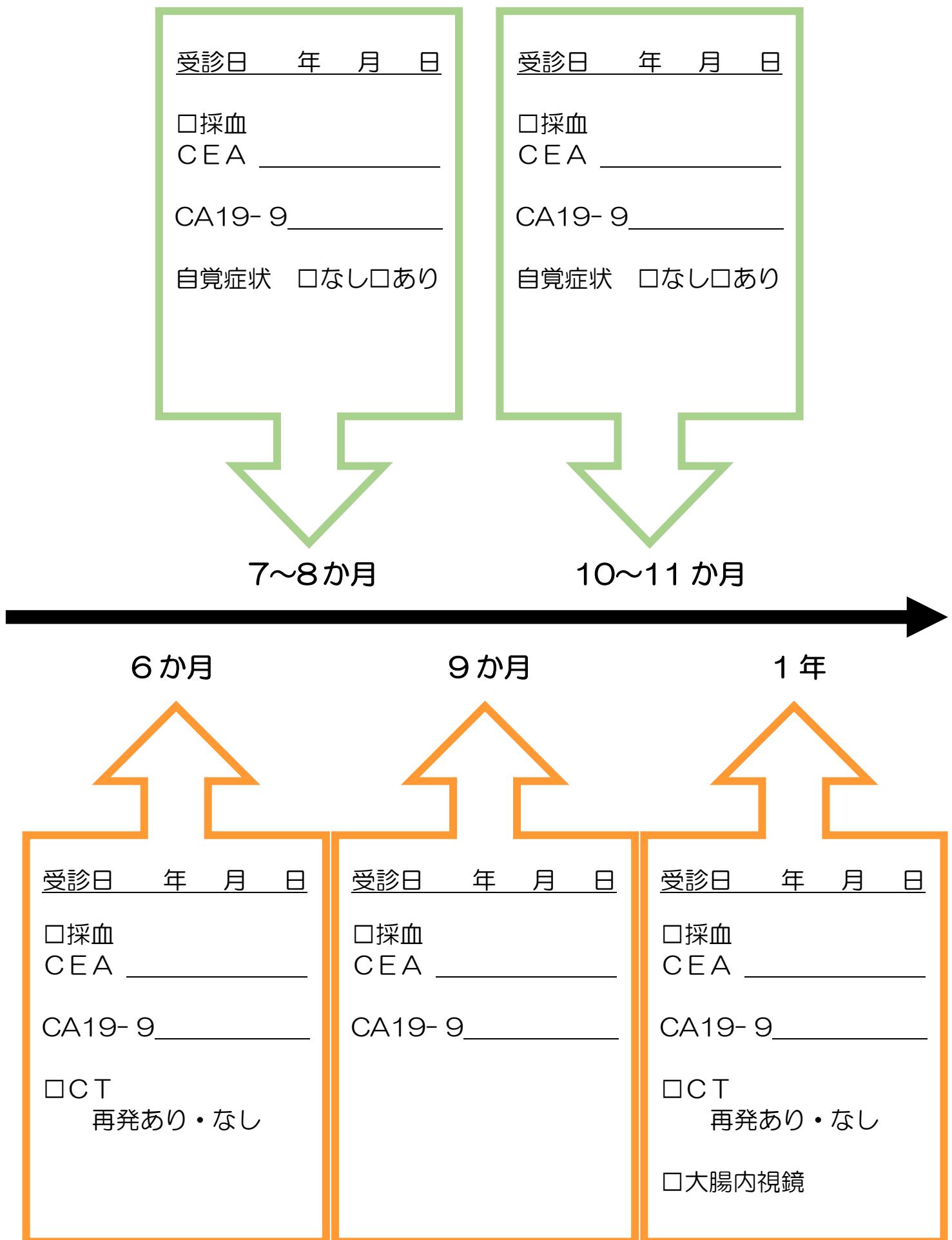
T () N () M ()

Stage ()

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____

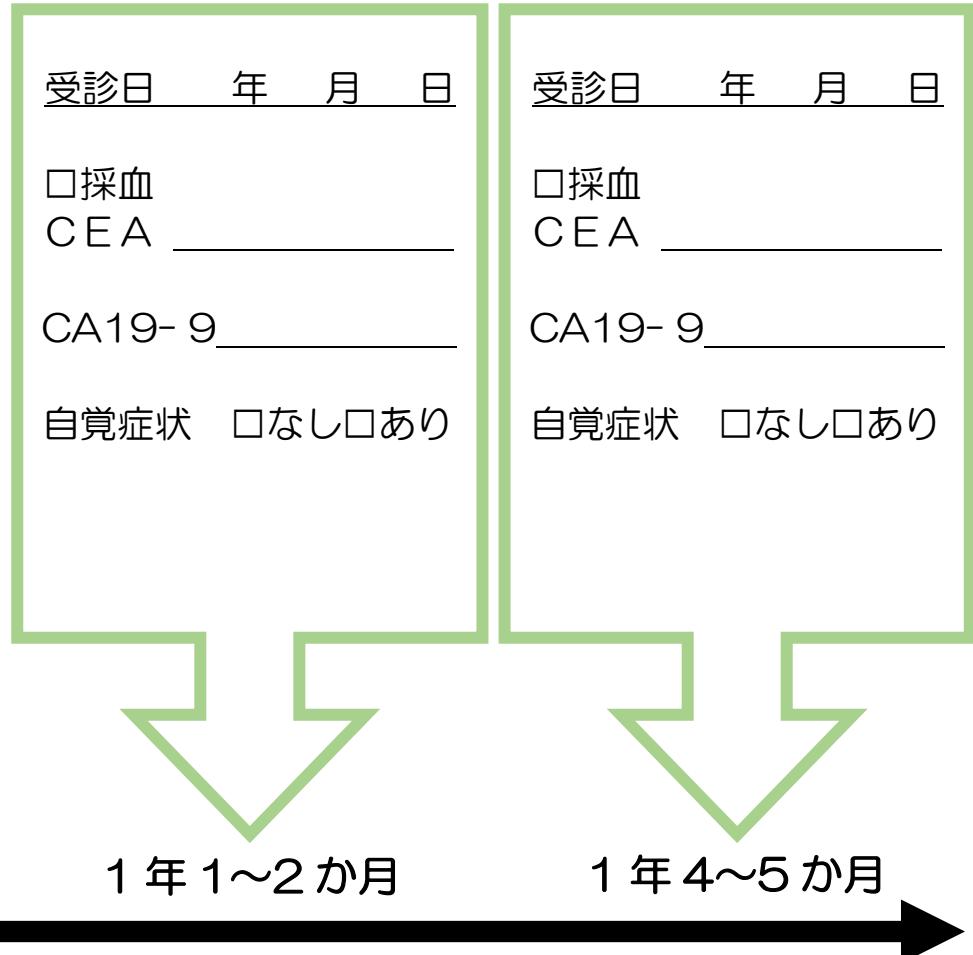


大腸がん術後連携ノート（1年～2年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____



中東遠

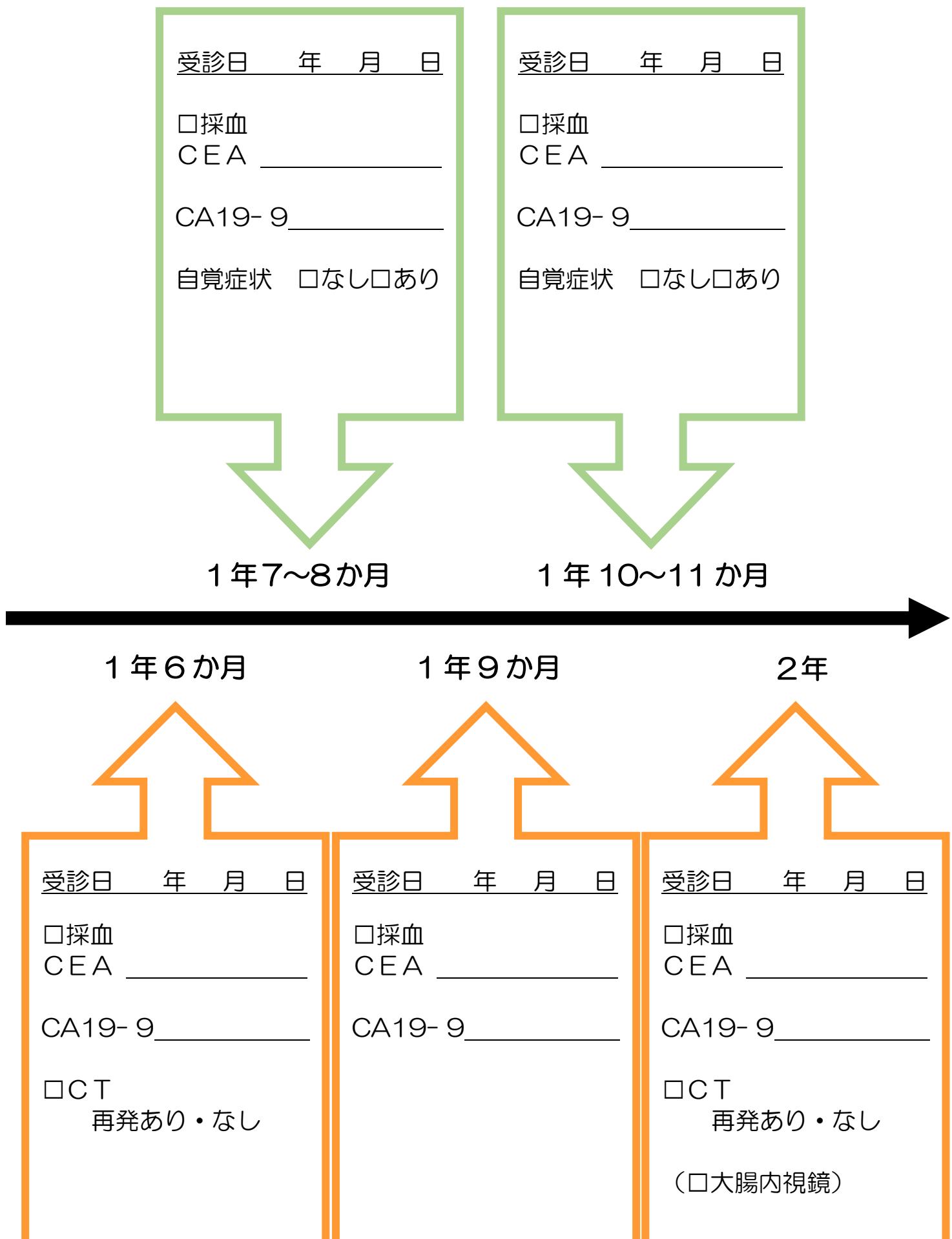
患者ID ラベルシール

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____

↑

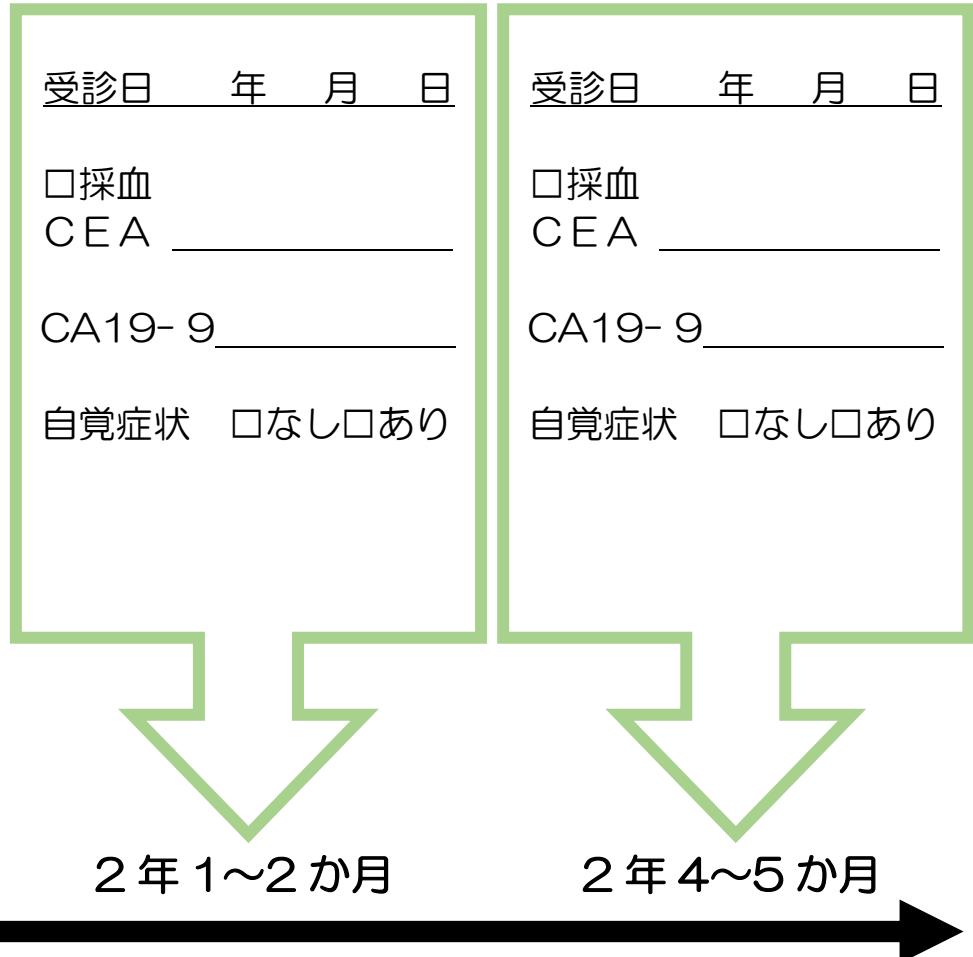


大腸がん術後連携ノート（2年～3年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____



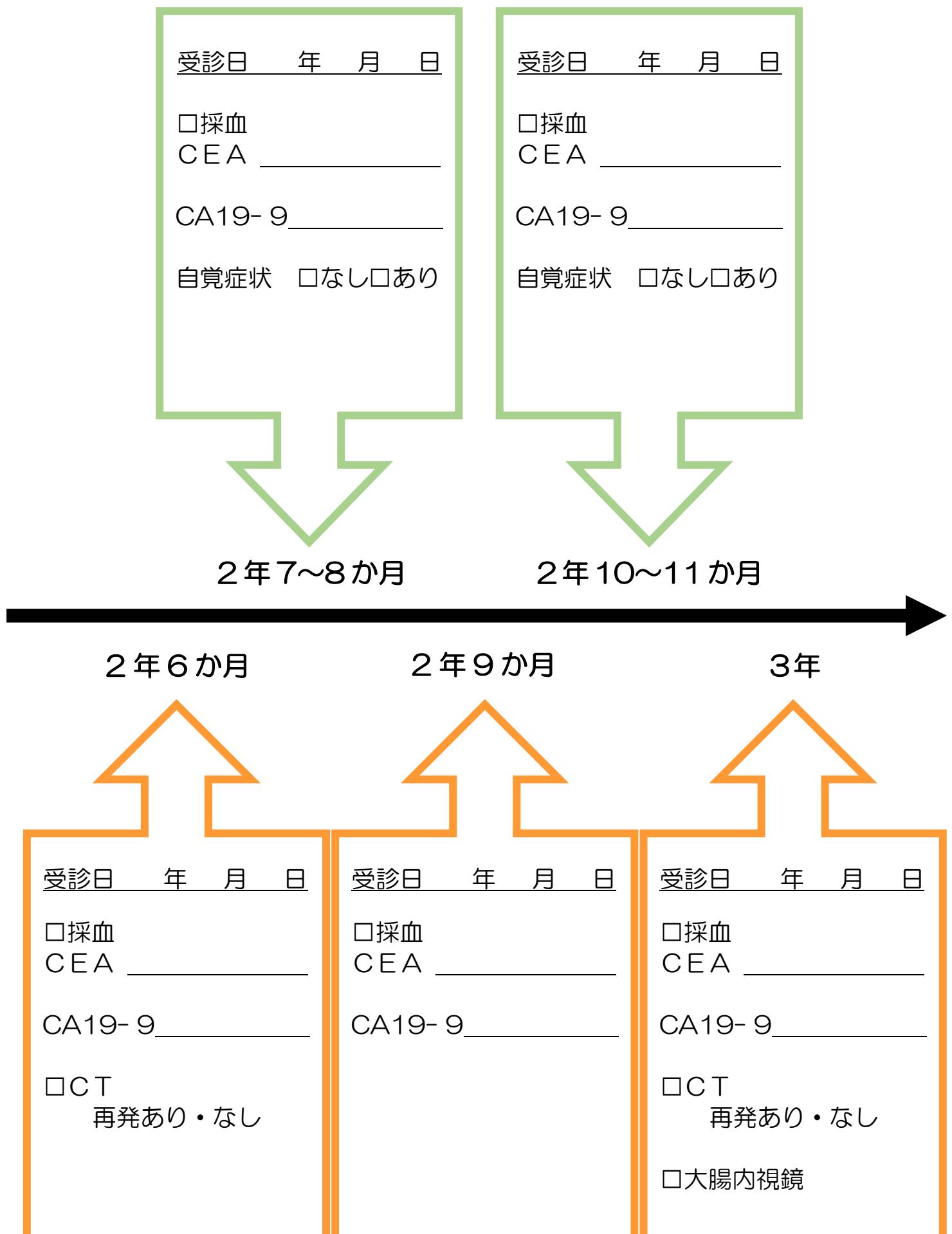
中東遠

患者ID ラベルシール添付 _____

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____

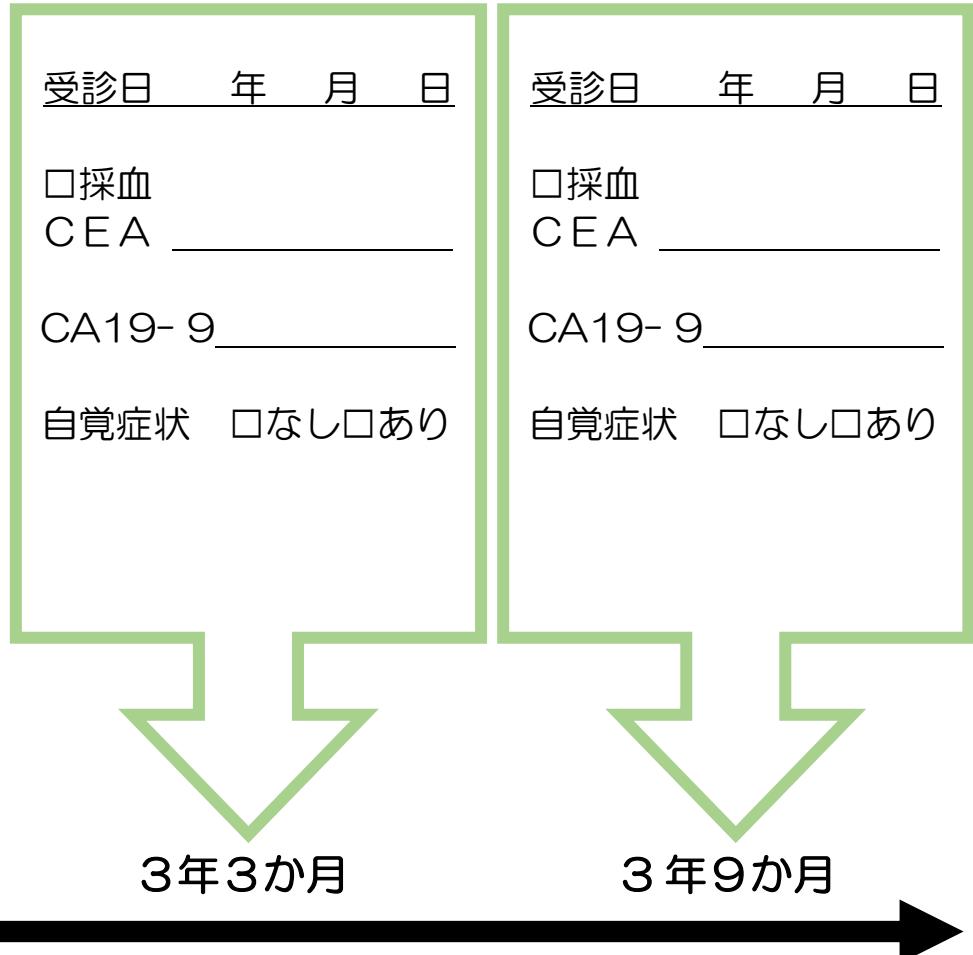


大腸がん術後連携ノート（3年～5年目）

開業医

医院名 _____

医師名 _____



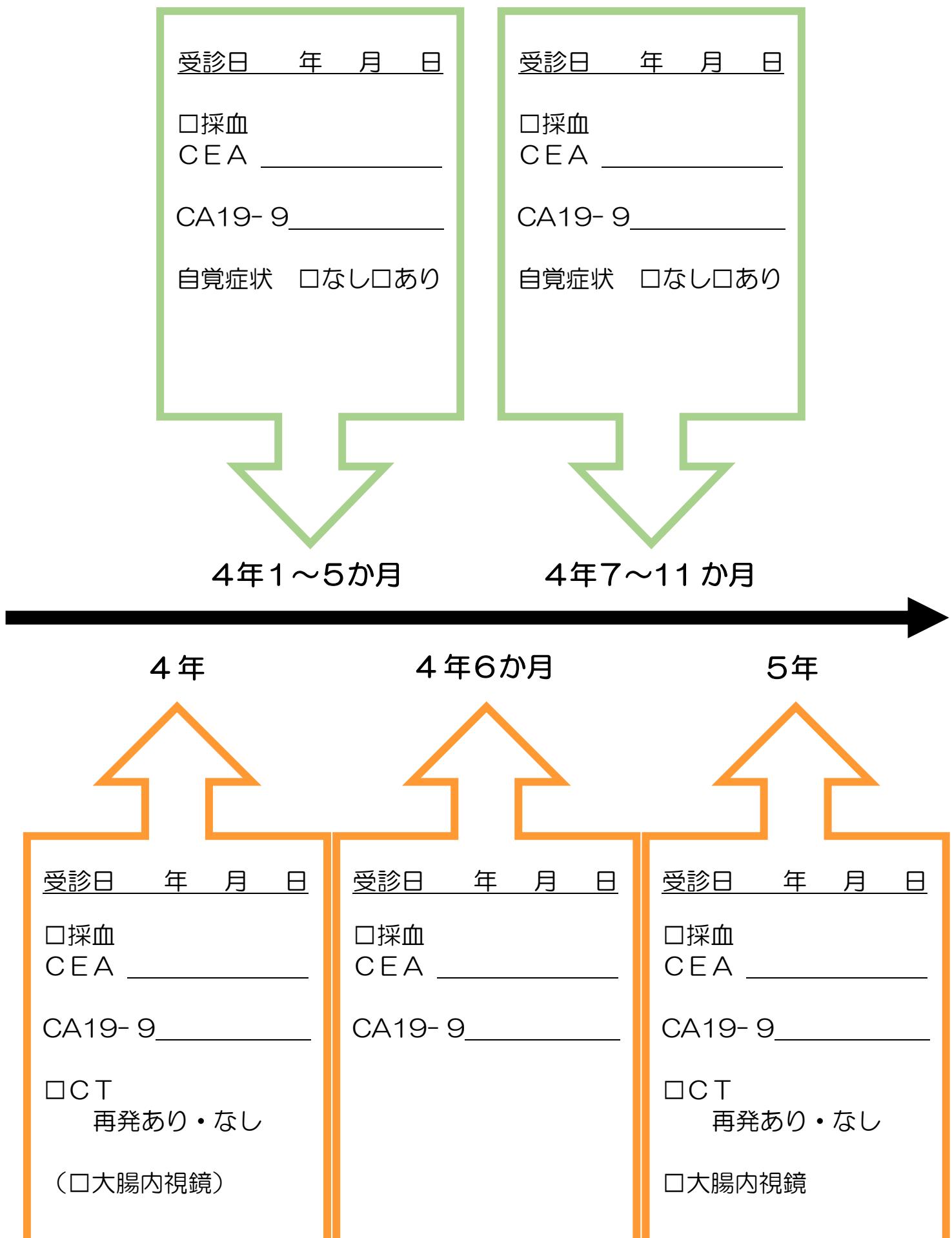
中東遠

患者ID ラベルシール添付 _____

受診日 年 月 日

□採血
CEA _____

CA19-9 _____



がん相談支援センターのご案内

患者さんが安心して療養に専念していただけるように病院内に相談窓口を設けております。がんに関する様々な悩み、不安、心配ことの相談はがん相談支援センターでお受けしております。

場 所：1階がん相談支援センター⑬番

時 間：8時15分から16時00分
(土・日・祝日と年末年始を除く)

電話番号：0537-28-8159(直通)

応対者：看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士

※予約不要ですが、相談員が面談中ですと、お待ちいただくことがありますので、事前にお知らせいただければ幸いです。

中東遠総合医療センターの受診について

病状が落ち着いているときの投薬や採血、日常の診療はかかりつけ医が行い、専門的な治療や定期的な検査は中東遠総合医療センターが行います。

受診時には「保険証」、「診察券」、「大腸がん術後連携ノート(本誌)」を持参してください。

【予約外の受診】

症状でお困りの際は、予約外受診も受付けています。中東遠総合医療センター消化器外科外来に電話でご相談ください。

夜間・休日で緊急を要する場合は、「救命救急センター」で対応させていただきます。

電話番号：0537-21-5555(代表)



MEMO

MEMO

お名前

様

かかりつけ医（診療所の名称）

（電話 - - ）

中東遠総合医療センター 消化器外科

担当医

電話：0537-21-5555（代表）

受付時間 8:30～17:00まで（平日のみ） 休診日 土・日・祝・年末年始（12/29～1/3）

